

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

	放課後等デイサービス ココアート		
○保護者評価実施期間	2024年11月12日		～ 2024年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2025年1月10日		～ 2025年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子ども一人一人の課題を明確にして日々小さな課題を設定してそれを職員間で共有して支援していること。	・明確にされた課題をどのような環境設定で子ども達の成長につなげていくかを毎日検討している。	・外出先でのトラブルを保護者と共有して、そのトラブルが少なくなるよう、外出時に職員の支援を通して子どもと向き合っている。
2	・保護者との連携については、日々の送迎時に、事業所であったことや、園の様子も伝えている。	・毎日のサービス記録などを通して、写真や文章で保護者に伝わりやすい工夫をしている。	・園の担任との話し合いを通し、保護者と関係機関との橋渡しが充実するよう心掛けている。
3	・土・祝日・長期休暇の休みを利用して外出をし、保護者との外出では得られない、集団行動による公共マナーや社会性を育てるようしている。	・外出先でのトラブルを保護者と共有して、そのトラブルが少なくなるよう、外出時に職員の支援を通して子どもと向き合っている。	・歩き方、並び方、立ち方、社会に出るためのマナーとしての一定のルールを伝えながら、一人一人の課題を見つけていけるように配慮している。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員のスキルに個人差が見られる。日々の支援の中でお互いに伝えあいながら、スキル向上に向けて取り組んでいく。	・職員一人一人のスキルにばらつきがあり、支援方法の方向性を統一することが難しい場合がある。	・研修を行い、ケース会議などを行いながら、職員一人一人のスキルを理解しつつ、支援の質を一定に保てるよう、マニュアルを作成したり、支援の基準を統一できる工夫をしていく。
2	・地域とのかかわりが少ない。(外出時に地域の公園へ行っても事業所の子も同士で遊び、交流が持てずにいる。)	・地域の公園や児童館へ行った際、地域の大人や子ども達と関わりが持てるようにしていきたい。	・地域の祭り、行事に参加していき、少しずつ関わりを増やしていけるようにする。
3	・保護者からの相談があり、随時すぐに対応するよう心掛けているが、対応時間や担当職員とのアポイントが合わず、時間がかかることがある。	・保護者の要望について、どの職員も対応できているとは言えず、担当者が情報共有やニーズを把握しきれないことがある。	・保護者に向けて、家庭での支援方法を学ぶ機会を提供できるように職員一人一人のスキル向上を目指し日々の送迎時にもアドバイスが出来るよう目指していく。